

第3章

テーマ3 「地域の中の商店街」
—地域と商店街の新たな連携を考える—

平成19年1月23日(火) 午後2時～4時30分

ゲスト報告

モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合理事長 伊藤博
モトスミ・オズ通り商店街振興組合副理事長 中野勝久

伊藤 ブレーメンという名称の使用許可を受けた際に、ドイツのブレーメンにあるロイドパサージュという商店街との友好関係から環境の取り組みが生まれてきた一店一エコ運動は、平成15年度に市の「頑張れモデル商店街事業」の中で、どこの商店街でもできる、お金をかけずにできるということで始めた。現在70店舗が取り組んでいる。一店一エコ運動では、住吉小学校と井田小学校の子どもたちが「エコ調査隊」として夏休みにそれぞれの店にチェックに行っている。店では店頭でグリーンのポスターで取り組んでいることを掲げ、その取り組みについて調査隊は質問や評価を店に厳しくぶつけるため、各店は緊張感を持って運動に取り組んでいる。

中野 オズ通り商店街では、空き店舗を「街なかボランティア・ピース」とし、「寺子屋」などの事業を平成14年から始めた。たまたま慶応義塾大学の学生と出会い、私から学生にお願いして一緒に活動するようになった。「寺子屋」は小学生を対象に、毎週土曜の午後2時から4時まで行っている。子どもたちは100円を持ってきて、勉強が終わった後お菓子やジュースを買い、みんなでお話ししたり遊んだりしている。

伊藤 商店街でペットボトルや空き缶の回収を行えば、資源の持ち寄りに対してポイントを差し上げることで地域通貨につながり、ひいては商店街の活性化につながる。

中野 商店街とボランティアをどう結びつけるか、学生たちと話を進め、子どもを中心にした異世代間交流に取り組むこととなった。

伊藤 商店街は、基本的には商店街の会員の会費で成り立っている。ブレーメン通り商店街の組合加入率はかなり高いが100%ではない。大手ナショナルチェーンの中には、組合費、街路灯の電気代を払っていないところもある。これからの商店街というのは、安全・安心のまちづくりなどにお金がかかる。そういう現状があることを認識していただきたい。

中野 以前は平日に一時保育事業も行った。最初は無料だったが、だんだん厳しくなってきたため、一般は1時間1,000円、商店街への来客については1時間500円にした。その中でこどもの救急医療の仕方とか、パンの焼き方などの講習を行った。

「オズファミリークラブ」を会員制でつくった。携帯電話で空メールを打つとすぐに会員になれる。現在、1,000人ほどの会員がいる。これを利用して、災害時には、水の供給や炊き出しなどの情報を供給することができる。



ブレーメン商店街での「一店一エコ運動」。商店街のエコバッグは、ドイツブレーメンから輸入しているそうです



商店街事務所を慶応義塾大学ボランティアサークルの活動拠点に。土曜日は小学生を対象にした寺子屋塾の日です

ビデオ報告

モトスミ・ブレイメン通り商店街、
モトスミ・オズ通り商店街における地域と連携した新しい取組み

商店街店主から

- 「ここからいろいろな運動を発信できる商店街になれたらいいと思う」ブレイメン “ベーカリー・バンドプブ”
- 「高齢者や子どもたち、人にやさしい商店街になっていくといいと思う」ブレイメン “フレッシュマート ワタベ”
- 「安心して買い物ができる、地域密着で住んでいる人を大切にしていきたい」オズ “洋品橋本屋”

寺子屋に参加していた児童から

- 「ここには知らない子が多くて、でもすぐに知り合えて友達になれるところがいい」小学校6年生
- 「勉強が終わって、みんなでゲームするところがいい」小学校6年生

そのほか

- 「かつて商店街は生活必需品を売り、祭りなどを行って地域コミュニティの役割を担っていたが、これからは高齢者の拠り処とか、子どもの見守りとか、商いだけ考えるのではなく、そういう役割を果たしていくのは商店街の責任ではないか」中原区商店街連合会会長 尾澤良二
- 「東横線が高架になり、ブレイメンとオズとが初めて合同でイベントをした。小杉再開発に対し、両者が一緒に販促活動ができたらいい」ブレイメン通り商店街振興組合理事長 伊藤博
- 「若い人が商店街に入ってくると、町が活性化してくる。お客さんも元気になるんじゃないか」オズ通り商店街振興組合副理事長 中野勝久
- 「町の人たちが会うたびにあいさつができて、新しく入ってくる人を笑顔で迎えられる、そんなまちになったらいいと思う」オズ通り商店街振興組合副理事長 中野勝久



酒屋宇野商店の焼酎の量り売り。最近ではマイボトル持参のお客さんもいるそう



慶応義塾大学ボランティアサークル「ピースプロダクション」による商店街の清掃活動。商店主や道行く人にあいさつをかけながら行きます

会議での意見

- ブレイメン通りのマイバッグ持参運動は、取り組みやすく、環境問題にもいい。
- 区全体を見るとその場その場の商店街でイベントを行っているため、ばらばらの感じがする。地域の住民としたり、身近な商店街同士が一つになる形で、まちとして売り出せば商店街の大きさを市民にPRできると思う。
- 小杉駅周辺の再開発で新住民が相当入ってくると、既存の商店街はもうちょっと仲良くしないと押されてくるのではないかと。ぜひ、ブレイメンやオズ両商店街のノウハウを採り入れてほしい。
- 最近では大型店が増え、昔、例えば豆腐屋さんだったら朝3時、4時から商売をしていたというような

職業観を子どもたちに感じ取ってもらうことが減ってきた。ぜひ商店街の方々に、地元の小中学生、高校生、大学生たちと触れ合いができるよう頑張ってもらいたい。

- お年寄りや子どもたち、足の不自由な方などのために商店が中継点になって配達できるようなことができないか。また、昔の御用聞きのように電話一本で持ってきてくれるようなこともできないか。
- 子育て中のお母さんから聞いた話だと、2、3人の子どもを育てていると買い物も美容院も行けない状況があるようなので、寺子屋のように有償でもいいから子どもを預かってくれる場所ができるといいな、と思った。
- 商店街が活性化することによって、そこに住んでいる人たちにとっても暮らしやすいまちになる。
- 市や国からお願いしたり、法制化したりして、コンビニなど大きな企業にも組合に入ってもらいたい。
- 新丸子駅から等々力まで案内サインを設置すると聞いている。サインに商店街の名前を入れるなどすれば商店街の活性化になるのではないかな。
- 私の娘は、買い物は川崎駅前の大型店に行っている。少し時間がつぶせるような、そういう商店づくり、商店街づくりがこれからあってほしい。
- 中原区でも例えば「デートコースづくり隊」や「のぼりとゆうえん隊」のような活動、町の活性化のための活動をぜひ商店街、若い人たちと一緒にやっていきたい。
- 地域に目を向けるようなことが製造業を含めて商店街に出てきていると思う。商売はもちろん基本だが、地域と関わりを持つということを一つ一つの店が考えてほしい。例えば、「一店一いいこと運動」みたいなことを商店街でまとめて情報発信してもらえると地域の人は行ってみたいと思うようになるのではないかな。

地域での取組

会議をきっかけにして、区では川崎市新総合計画川崎再生フロンティアプラン第2期実行計画において、「商店街と連携した地域のまちづくり推進事業」を平成20年度から3年間、重点的に進めていきます。商店街を地域コミュニティの場として活用できるよう、新たな取組みの実施に向けて商店街や町内会、子育て世代を交えての検討会が始まりました。

また、平成19年の市商店街連絡協議会においては、チェーン店の商店会加入を要望しました。オズ通り商店街では、子育て世代に新たなサービスを提供する検討会も始まっています。

1. 「商店街と連携した地域のまちづくり推進事業－懇談会がスタート－」

商店街を地域の情報交換や交流機能等地域コミュニティの場として活用し、地域の活性化の促進に向けた新たな取り組みについて意見交換や情報交換をする「中原区商店街と連携した地域のまちづくり懇談会」が平成19年12月にスタートしました。

会のメンバーは、区商店街連合会、町内会、婦人部連絡協議会、区内子育てグループ、区役所、市経済局。

「個店ではなかなか対応できない。今は人手がなく、商店街も高齢化している」「空き店舗は簡単には借りられない。使うためには、家賃、改装費などが必要」「地域には高齢者が多いので、よろず屋のように一箇所ですべて買えたり、商店街の中に休憩所があったりすれば便利」「オズ通り商店街では、託児サービスがあって助かった」「小さな子ども連れだと、商店街に自転車置き場やベビーカー置き場があるといい」などそれぞれの立場で、商店街の現状、地域における高齢者や子育て世代の買い物時の大変さなどの意見や情報が交換されました。

お互いの状況を把握し、2回目では具体的な取り組み内容について取り上げました。
今後、モデル的な取り組みを決定し、平成20年4月以降、順次実施していく予定です。

2. 「商店街における子育て支援—モトスミ・オズ通り商店街子育て支援検討会—」

地域における商店街の役割として、また商店街のサービスとして、商店街ぐるみで子育て世代を応援しようとモトスミ・オズ通り商店街では新しいサービスメニューの検討のため、平成19年10月から商店街事務所で子育て支援検討会を始めました。

会に参加しているのは、オズ通り商店街振興組合、子育てグループ、慶応義塾大学ボランティアサークル「ピースプロダクション」、中小企業診断士、神奈川県商工労働部商業観光流通課。県の補助を受けて会を実施しています。

会の中心は、中小企業診断士。プロの目から成功例を引き合いにプランニングを作成、子育てグループの積極的な意見を採り入れながら具体的な企画に練り上がっています。

現在企画が進んでいるのは、商店街店主が講師となった生活実用講座の開催。鮮魚店主が魚のおろし方を、青果店主が野菜の見分け方と切り方を教授するといった具合です。講座開講中、子どもは慶応義塾大学ボランティアサークルの学生たちが面倒をみます。この日の会議では、葬儀屋さんのマナー教室や母の日に向けてラッピング教室も楽しそう、とのアイデアがお母さんたちから出ました。

記念すべき第1回目として、平成20年3月29日に「魚のさばき方・盛り付け方講座」が開催され



平成20年3月29日に企画第1弾「店主による生活実用講座」がいよいよスタートしました。この日は、スルメイカとあじをさばきます



真剣な表情の参加者のみなさん



オズ通り商店街子育て支援検討会。商店街事務所で開催しています

ました。スルメイカを刺身にしたり塩辛にしたり、また、あじを3枚におろしたりとプロによる丁寧な指導が行われました。味見の時間になると事務所は一転して和やかな雰囲気。思わず「おいしい」の声があちらこちらで上がりました。

講座では、ほかにもお母さん記者による情報紹介を計画中。オズ通り商店街で気になるお店について紹介記事を作成し、商店街事務所へ送付、これを「オズ・ファミリークラブ」会員の携帯電話にメール送信するサービスです。

オズ通り商店街では、区民会議後、区役所から子育て情報を定期的に受け、それを会員に送信するサービスも行っています。

会では、他市商店街の事例視察も計画しており、子育て世帯にも優しい商店街を目指した取り組みが進められています。

【平成20年3月29日取材】

3. そのほかの取組み

[地域で]

- 地域・中原区商店街連合会で、高齢者の困りごとを支援する事業を目指した研究を始めることとした。
- 中原区商店街連合会として、商店街で取り組んでいることも110番や見守りへの取り組みを一層きめ細かくし、啓発活動を行う。
- 中原区商店街連合会では、各地区の商店街の活性化や振興策の参考例として定期役員会において、区民会議のビデオ、議事録などを報告した。
- 今後商店街の会合の中で、地域との連携策など機会を捉えて話し合っていくよう努めていく。
- 子育て支援推進実行委員会として、地域の商店主に子育てサロンの案内やボランティア（スタッフ）募集のチラシ、子育て情報紙などの掲示を依頼し、買い物客に広報できるよう現在検討している。
- 子育て支援推進実行委員会として、中原区で創刊した「子ネット通信」を開業医に置いて、子育て中の保護者に配布できるよう現在調整している。
- 子育て支援推進実行委員会として、区内に転入してきたばかりの保護者へ子育てサロンを通して地元商店街の紹介やお買い物情報などを提供できるような取り組みを検討したい。
- 平成19年から、小杉地区、丸子地区の14商店街、市民文化団体及び行政がパートナーシップを組み、「丸子・小杉桜まつり」を開催した。
- 丸子多摩川観光協会では、平成19年11月に「阿波踊り」のイベントを丸子地区商店街で盛大に行った。
- 平成19年、新城駅周辺の放置自転車の取り締まりを新城商店街と地元町内会とで協力して実施した。
- 「なかはら20年構想委員会」で、小杉駅周辺について商店街を含んだ散策マップ作りを現在検討している。

[行政として]

- 新丸子駅から等々力緑地へ誘導するために設置した案内サイン(計3カ所)に、商店街の名前を入れた。
- 「川崎市商店街連絡協議会」において、商店街とチェーン店がお互いに認識を共有し、共に商店街の活性化や地域貢献に取り組んでもらえるよう、区民会議における意見を伝えた。
- 商店街が地域の情報交換や交流の場など地域住民の生活を支援する地域コミュニティの核として期待されており、今後区役所としても地域と商店街との連携を一層強化していく。
- 区役所保健福祉センターの関係課が、中原区地域福祉計画の中で「商店街と連携したまちづくり」を位置づけ、「中原区商店街と連携した地域のまちづくり懇談会」に参加し、地域福祉の側面からモデル事業に参加・協力している。